

令和7年度第2回花巻市行政評価委員会(子育て・人づくり・地域づくり部会)会議録

1 開催日時

令和7年7月28日(月)午後1時30分～午後2時55分

2 開催場所

花巻市役所新館3階 会議室

3 出席者

(1) 委員 5名

杉谷和哉委員(岩手県立大学総合政策学部准教授・部会長)、佐藤睦朗委員(一般財団法人花巻市スポーツ協会会長)、中村萬敬委員(花巻市芸術協会理事)、中里美委員(花巻市内学童クラブ連絡協議会会員)、板垣武美委員(公募委員)

(2) 説明者(施策担当部長、施策主管課長) 2名

阿部晋(地域振興部長)、松浦秀樹(定住推進課長)

(3) 事務局(施策評価及び事務事業評価担当) 3名

小原広幸(財政課長補佐兼経営財務係長)、八重樫尚孝(秘書政策課企画調整係長)、小原紘(秘書政策課主査)

4 議事録

(市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「移住者と地域との交流の場等の創出」について評価を実施。)

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

≪施策主管課説明後≫

(中村萬敬委員) イーハトープ観光大使の取扱いは現在どうなっているのか。

(阿部地域振興部長) 所管課が観光課であり、情報を持ち合わせていないため回答しかねる。

(中村萬敬委員) 承知した。移住相談員は花巻市在住の方が。

(松浦定住推進課長) そのとおり。

(中村萬敬委員) 首都圏や関西に住んでいる花巻出身者に協力してもらい、花巻の魅力を発信してもらう、あるいは、首都圏から若い人たちの移住定住を進めてもらうとか、そういう発想もあるのではないか。

(松浦定住推進課長) 花巻市民ライターは市内限定ではなく、盛岡の方や都内の方も参加していただいている例もあるため、その方々からアプローチをかけていただくことはできるかと思う。また、今年の在京花巻人会の集まりにおいて、日本学

生支援機構の奨学金を借りていて、Uターンを考えている方に、花巻市の企業で働くと奨学金返済に補助が出る、などの情報提供を行っている。イーハトーブ観光大使を所管する観光課と横展開ができるようであれば検討していきたい。

(中村萬敬委員) 以前、花巻市での生活体験を提供し、将来的に花巻市に住んでもらうことを目的とした学生向けグリーンツーリズムを考えていた。行政の力を借りようと、市役所の関係課や、地元のコミュニティ会議に声をかけたこともあったが、応援が得られなかった経験がある。首都圏から地方に移住したいというニーズはあると思われるため、定住推進課だけでなく、他の課と一緒に取り組んでいくことが必要ではないかと思う。

また、地域おこし協力隊の方々が活躍しているが、なかなか地域の中に溶け込めない環境があるようだ。任期の3年間は何事もなくやっているようだが、いざ定住しようとする、地域に溶け込みづらい様子。定住推進課だけが取り組んでも改善は無理だろうから、例えば生涯学習課で社会教育の中で良い方向に教育していくなど、連携してやっていけば、住みやすい花巻市になるのではと考える。

(松浦定住推進課長) グリーンツーリズムの話については、先ほども説明にもあったが、国の方で「ふるさと住民登録制度」という、例えば住所は首都圏でありながら1ヶ月のうち1、2週間は花巻で過ごす、という2拠点居住のような施策を打ち出しており、今後農業に従事したいという方も出てくるのではないかと想定している。国がどういった支援をするのか注視していくが、おそらく一番ネックになるのが首都圏から花巻市まで来る時の移動費。国からどれだけ支援があるのかも判断材料になってくる。定住推進課だけではなく、農政課や観光課などと相談しながら考えていきたい。

また、地域おこし協力隊については、任期終了後も花巻市に住んでいる定住率が63%となっており、全国的に見ても低くはない。その数字を見る限りではある程度地域に溶け込んでいるものと思う。令和5年から花巻・東和・石鳥谷・大迫の4か所で移住者交流会等を開いており、例えば花巻では湯本で開催し、湯本のコミュニティ会議の方と交流した。また大迫ではすでに地元で溶け込んだ移住者と懇談をし、こういう暮らしをしているなど、移住した後の過ごし方などがわかりやすい交流会とした。アンケート結果はおおむね満足していただいている様子。今後も継続していき、より良いものになればと思っている。

(杉谷和哉部会長) 移住者自体の推移は今回の資料にはあるか。

(松浦定住推進課長) 正確な数字は手元にはないが、秘書政策課の方で社会増減の人口動態を持っている。

(杉谷和哉部会長) 基本的に今回の施策は移住定住の推進であるため、各事業の中で交流会に何人来たかとか、あるいはホームページのアクセスがどれだけ増えたかというのは、アウトプット指標であり、アクティビティによって生じる結果のこ

と。アウトプット指標ももちろん大事なので測るべきだが、ホームページを作ることが目的ではなく、定住者や移住者を増やすことが目的のはず。ホームページのアクセス数がどれだけ増えても定住者の増加に繋がっていなければ意味がないので、ぜひ来年度以降、評価する際には気をつけていただけると良い。総合計画の中では今の指標で固定されているので、移住者数は参考として書くと良いと思う。ホームページ閲覧数などの指標の設定をしてしまうと、その数字にとらわれてしまって本末転倒になるため、気をつけていただけると良い。計画の指標というのは市の頑張りでコミットできる数値が設定されるので、それ自体はやむを得ないが、意識してもらいたい。

先ほどの中村委員の質問と関連するが、どんな人に移住してもらいたいのか。  
(松浦定住推進課長) 一番望ましいのは子供連れの方。まだ検討中だが、ふるさと住民登録制度を進める上で一番ターゲットにしたいのは子育て世帯と考えている。例えば、お試し移住として3日間から1週間滞在していただく施設を用意する時、子供の遊ぶ公園があるなど周りの環境がふさわしい場所を選んでいくべきだと考えている。

(杉谷和哉部会長) どういった層の人に来て欲しいか、を意識した宣伝をすると良いと思う。

(松浦定住推進課長) 花巻市は高校が充実している。県内有数の進学校である花巻北高校や、スポーツの分野では全国的に知名度のある花巻東、就職を考えたときには花北青雲、農業関係の花巻農業高校など、将来の選択肢を選べる高校がいっぱいあるのは強み。もう一つ、人口動態について、令和6年1月1日から令和6年12月31日で38人の社会減。令和5年1月1日から令和5年12月31日だと98人の社会減なので、数値としては60人ほど改善した。

(杉谷和哉部会長) それは移住している人がいるという理解で良いのか。

(八重樫企画調整係長) 多くは外国人。人口動態調査は秘書政策課でやっているが、19~24歳は年齢的に高校や大学の卒業のため出ていくのが多い。0~14歳と30~39歳は確かに増えてはいるが、それは一つの要素であり、一方で外国人が増えているという実態はある。また子育て世帯には、例えば医療費の助成や保育料の減免など、色んな分野でやっている中で特徴的な取り組みを見て選んでもらっているというのが花巻市の社会増の要因の一つだと考える。

移住に関する事業は、子育て世帯に対する住宅支援など、この施策に紐づいていないものもある。社会減が他の自治体から比べると少し緩やかになっているのが花巻市の特徴。

(杉谷和哉部会長) 他に意見はないか。

(板垣武美委員) 移住と定住は何が違うのか。

(松浦定住推進課長) 移住は、花巻市外から花巻市内に転入すること。定住は、移住

した人がずっと花巻に住むこと、元々花巻市民の方が住み続けていることも言う。

(板垣武美委員) 市外から呼び込む事務事業がメインで、流出を防ぐ事業は無いのか。

(松浦定住推進課長) 流出を防ぐ事業に関する施策は別にあり、定住促進住宅取得等補助金や、子育て世帯住宅取得奨励金といって子育て世帯の方がご両親と同居や近居した場合に奨励金を出す、というものもある。

(板垣武美委員) 今回の施策は移住者と地域との交流の場の創出、ということでお話をいただいたが、私がお尋ねした部分については、別の施策にあるということは理解した。その施策名は何か。

(松浦定住推進課長) 「移住定住支援制度の充実」です。

(板垣武美委員) その施策は定住の方にウエイトがあるのか。

(松浦定住推進課長) 移住と定住どちらにも支援を行う。定住促進住宅取得等補助金は移住者を対象にしたもの。

(板垣武美委員) 今回の評価施策は「移住者と地域との交流の場等の創出」というタイトルだが、この施策に紐づいている事務事業が、地域おこし協力隊に関係する地域おこし促進事業、首都圏におけるフェア等の開催やポータルサイトの運営などを行う移住定住促進等対策事業、シティプロモーション推進事業の3つである。これらは交流の場になっているのか。

(松浦定住推進課長) この施策の目指す姿は「移住者が暮らしやすい地域になっています」となっており、暮らしやすい地域になっていることをPRする、という部分も入っているということでご理解いただきたい。

(佐藤睦朗委員) 地域おこし協力隊の人に残ってもらいたいという思いもあるだろうが、令和6年末の定住率が63%で、37%の人が定住しなかった理由というのはわかっているのか。

私が大迫に勤めたときには鈴木寛太さんが残った。それは彼を取り巻く人たちがいっぱいいたから。一緒にお祭りに誘ったり、鮎釣りに連れていったり、移住者を取り巻く人達が重要だと考える。移住者交流会の人数の内訳をみると、移住者同士が多くて、交流希望者が3人というところが引っかかる。周囲の人たちがいることで残ってくれる可能性があるのではないかと、思う。先ほど中村委員が溶け込みづらいと言ったけど、そうじゃない人もいますので、そういう方々を交流希望者の中に入れていけば、もう少し残ってくれる人がいるのではないかと、思う。

(松浦定住推進課長) 定住に結びつかなかった37%の人について、今年、途中で辞めた方がいるのだが、その方は大迫が好きで、大迫を盛り上げたいということで活動していた。しかし、活動しているうちに、大迫だけじゃなく遠野や沿岸も盛

り上げたいという思いがあり、活躍の場を広げるため協力隊を辞めた。必ずしもネガティブな理由だけではない。

(杉谷和哉部会長) その方は岩手には住んでいるのか。

(松浦定住推進課長) 市の近隣の町に住んでいる。活動について報告は受けてないが、石鳥谷で空き家を借りてデザインに携わりたいという話があった。他に定住に結びつかなかった事例として、ブドウ栽培のため3年間やってきたけども、大変だから生業としてやっていくのは難しい、ということで違う仕事を見つけて移っていった方もいる。

補足になるが、前半に説明した、庁内での地域おこし協力隊募集テーマの募集に時間を要した理由について、テーマが上がってきてそのまま募集を開始するのではなく、そのテーマで3年間活動した後、どんな仕事に就くことが想定できるか、担当課とのやり取りや地元の方にお話を聞いて仕事として成立できるか、道筋をつけてから募集をかける形にしていたため時間を要したもの。

(杉谷和哉部会長) 佐藤委員からの意見のとおり、地域の周りの人たちは大事。今回の事業の中身を見ると、行政は交流の場の創出やホームページの周知、それも大事だとは思いますが、まずは行政の方々に協力隊個人をエンパワーメントすることもあとが良い。行政はこういう交流の場には実際に行っているのか。

(松浦定住推進課長) 行っている。また、移住者交流会ではコミュニティ会議の方などを訪問先としている。令和6年度の参加者数は44人だが、その訪問先の方の人数はこの数字には入っていない。

(杉谷和哉部会長) コミュニティ会議の方だと、どういった業種の方なのか。

(松浦定住推進課長) 昨年の移住者交流会では、例えば東和エリアでは、東和作戦会議の方々、既に地域おこし協力隊にて活躍していた赤津さんなどをゲストにして開催した。石鳥谷では、さき織り体験ツアーと題して、石鳥谷でさき織りに取り組んでいる5人ほどの団体と対談する形で開催した。

(杉谷和哉部会長) 移住している方々からのニーズも踏まえて、訪問先も今後選定していく方が良い。最後に中里委員からどうか。

(中里美委員) 施策評価シートについて、昨年は少し分かりにくかったが、今年は分かりやすく変わったと思う。

(杉谷和哉部会長) 確かにだいぶ改善されていると思う。

(中里美委員) 資料を深く読み込むことがあまり得意ではないが、ざっくり見たときに、こういうことをして結果がこうだった、というのが去年よりは分かりやすい。移住定住の推進ということで、さきほど部会長が言ったように、移住者がどのぐらいいたのかが疑問だったので、参考としてあとが良い。

(杉谷和哉部会長) 関係ない話かもしれないが、先日東京でイベントがあり、フリマアプリ会社に元々勤務していた官僚の方に出会ったとき、特定の政策の効果はわか

りにくい、という話をした。移住定住の促進についてはこの施策以外にも色々な施策があって、どうしてもバラバラにやっている印象がある。その官僚の方が面白いことを言っていて、フリマアプリ会社で広報の効果を図るため、広報を全部やめて1年何もしなかった。どうなったかという、売上は変わらなかった。ただそれは大きな企業であるから、これ以上やっても効果が出ない、ということなのだと思うが、このことを例に考えると、去年までもずっと同じようにやっているから続けるというより、やる意味があるのか、と思うことは止めてみて、それでもしも成果や人口動態が変わらなかつたら要らなかつたのでは、という判断もあり得るかもしれない。もちろん実際にやるのは難しいと思う。

他に委員の皆さんから何かあるか。

(松浦定住推進課長) 最後に一つ補足。移住者数ではないが、移住定住に関するもう一つの施策である「移住定住支援制度の充実」の成果指標に「定住促進住宅取得補助金を活用した件数」というものがあり、令和6年度は15件の目標のうち19件の実績となっている。

(杉谷和哉部会長) それは市外から来た人しか使えないものか。

(松浦定住推進課長) そのとおり。この件数は確実に移住者であるため、我々が把握できる移住者の数は、この成果指標で測ることができる。しかし、補助金を活用せずに移住してくる方も当然いる。我々としては、住宅を取得するなど大きい経済的な負担があるところに補助を出しているの、新たに住むだけであれば、補助金の対象にならない。

(杉谷和哉部会長) 住民の転入の数は分かるのか。

(八重樫企画調整係長) 公表されている。先ほど説明したとおり令和6年度は社会減38人であった。自然増減は出生数と死亡数の差のことだが、少子高齢化で自然減という状況。

(杉谷和哉部会長) 聞いていて感じたことだが、外国の方もいるし、松浦課長が言ったように、例えば、転入者だけど実は1~2年の転勤で来た、という人もいる。これらを考慮すると移住者の数を測るのは意外と難しい。

(八重樫企画調整係長) 外国人に限らず、外国からの転入転出も把握しているほか、首都圏の転出転入、県内も市町村単位で全部集計している。花巻市は県内の中だと他の自治体に比べ、県内からの転入が多い自治体である。

(板垣武美委員) 転入の手続きをする時に、理由は聞かないのか。

(八重樫企画調整係長) 過去にやったことはあるが、今は取ってないはず。

(杉谷和哉部会長) 承知した。

《阿部地域振興部長、松浦定住推進課長は退席》

(2) 委員会の評価結果の集約【施策評価検証シートの整理】

- ①「◎前年度評価の振り返り」において前年度の評価⇒見直しが機能しているか  
(杉谷和哉部会長) 見たところルーティン、変わらないでやっているという風に見受けられるので、もう少し改善の余地があるかと思われる。
- ②「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」の分析が的確に行われているか  
(杉谷和哉部会長) 概ね的確に行われている印象を受けた。また今日事務局から補足があったように、外国人の方が入ってきているという情報があったが、分析としてはできているという評価で良いと思われる。
- ③「4 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか  
(杉谷和哉部会長) 事務事業の成果がA 1つ、B 2つだったので、この成果自体は、私は妥当だと考える。付け加えるとすれば、これらの事業が移住にどのように影響を及ぼしているか、因果関係の証明はかなり難しいが、意識はしておかないと本末転倒になるため注意が必要である。検証自体は概ねできている。
- ④「5 施策の総合的な評価」が的確に行われているか  
(杉谷和哉部会長) これは板垣委員が質問されたことに関連すると思われる。ただこの総合的な評価というのは、今回だけではなかなか判断が難しかった。この点については私の方で資料をもう1回整理して、記載したい。総合的な観点についてはもう少し改善の余地がある。
- ⑤シート記載内容全般について  
(杉谷和哉部会長) 不十分な点としては、参考として移住者がどれくらい増えているのかという情報が必要だと思う。事務局への質問だが、施策の成果指標は総合計画の進捗把握のためのアウトプット指標ということか。  
(八重樫企画調整係長) そのとおり。  
(杉谷和哉部会長) それはそれとしてやむを得ない面はあるかと思う。ただ、それらの成果がどのように定住者や移住者の推移に繋がっているのかという点については、もう少し意識してシートに記載すると良い。  
他に皆さんから補足などあるか。  
(板垣武美委員) 地域という言葉が何回も出てくるが、この地域がどの範囲を指しているのかがよく分からない。また石鳥谷、東和、大迫に総合支所はあるが、移住定住促進事業の事務事業評価シートに総合支所のこと記載されていない。大迫なら鈴木寛太さんという成功事例があるけども、総合支所の活躍が出てきていないのが気になった。  
(八重樫企画調整係長) その点について説明すると、地域おこし協力隊の方は支所に勤務しているが、地域おこし協力隊全体の取りまとめは定住推進課が担当している。

(杉谷和哉部会長) 移住という面については、色々な主体が関わっているので、このシートだけで評価するのは限界がある。他の部署や施策によればこの点はこうなっている、など課として説明できると良い。

また今回事務局から補足のあった外国人の話など、定住推進課が調べずとも、庁内全体として情報共有しておいた方が良いと思う。これはセクショナリズムの問題として指摘させていただく。

(板垣武美委員) シティプロモーション事業として、プロモーションサイトを作ったり、市民ライターの人が花巻に関係する記事を発信したりと頑張っているが、個人的には花巻東高校が一番シティプロモーションしてくれているのではないかと考えている。影響は行政のプロモーションサイトの比ではないと思う。最近では本屋大賞を受賞した阿部暁子さんのプロモーション力も見逃せないと思っている。どのように行政と絡ませていったら良いのかは分からないが、シティプロモーションのやり方については考えてほしい。

(杉谷和哉部会長) 指摘のとおり行政だけでプロモーションするのはなかなか難しい。総合的な評価では、これは事務局への要望でもあるが、庁内全体で人口動態などの情報共有がなされると良い。シート全体として、総じて改善点はあるけれども、概ね的確であるという評価になろうかと思う。

(板垣武美委員) もう一点意見。花巻の素晴らしさなどをPRしてくれているのは嬉しいのだが、やはり移住するとなると、大きな決断が必要になる。子供たちにも来てほしいのであれば、教育環境、医療環境、交通環境、そういったものを意識せざるを得ない。また冬の雪払いやクマ対策、悪臭問題を何とかしないと移住は難しいと思う。

(八重樫企画調整係長) 総合計画では移住や定住というのは上位の目標になる。以前配布したアクションプランの中に「子ども・子育て応援プロジェクト」と「花巻で暮らそうプロジェクト」と2つあるが、「花巻で暮らそうプロジェクト」は、例えば雇用の関係とか、住む場所の確保などがある。移住者はその中のどこかを切り取って見て移住してくる。また、帰ってくる方の多くは、実家の土地に家を建てるから帰るなど、そういう方たちが多い印象。移住や定住はこの施策のみで評価するのは難しい。各施策の評価を集約して最終的にどのような成果で評価するかというと、やはり社会増減の数になってくる。

(杉谷和哉部会長) 色んな施策を打って、どの施策が一番因果関係が強かったか、というのは判断が難しい。とはいえ評価しないわけにもいかない。ただ佐藤委員が言ったように定住せずに帰ってしまう人について、深掘りして聞いてみるのもいいと思う。

(板垣武美委員) 地域おこし協力隊にメンターのような人はつくのか。

(八重樫企画調整係長) 定住推進課の職員がつく。ブドウ農家などは大迫総合支所で

やっている。

(小原財政課長補佐) 他には農業振興公社などが実際に指導している。板垣委員から指摘のあった総合支所との関わりについて、地域おこし協力隊を卒隊した赤津さんが成島和紙を使ったランプシェードの夢あかり展などでは、総合支所の職員みんなでバックアップをしている。この施策評価シートの作りとしては、主要事業として予算が配分されている事業が記載されているので、人件費で対応している取り組みはシート上には出てこない。

(杉谷和哉部会長) 承知した。ではこれにて終了とする。

(以上)